

保健体育部会

水谷 淳

体力テストは誰のため？

ちょうどこの時期、スポーツテスト、

体力テストがこの学校でも今行われています。これまでも部会報告で体力テストの問題は批判してきましたが、毎年繰り返される中で現場では年中行事となり抵抗感が下がっているのではないかと危惧しています。体力テストの結果を受けて各学校は体力向上プログラム作成など対応策を迫られます。全国平均、全都平均、区や市の平均と比較してどの部分が劣っているか分析して、必要と考えられる運動を体育や全校行事などの中に取り入れる計画を作ります。また朝食が大事と食育にも力を入れます。結局、体力低下問題の責任が学校現場の問題のような錯覚に陥って、押しつけられた対応策を自らの課題ととらえて対処を進めていきます。体力低下の原因は文科省自身が

「時間、空間、仲間が減少」など環境の変化をあげているにもかかわらず、指導法や学校の教育実践に問題があるかのような錯覚に陥ります。

体力テストは1961年に経済成長のための「人づくり」施策として実施されて全国一斉学力テストの一環で64年にスポーツテストとして開始されました。現在の新体力テストは90年代からのグローバル競争の時代の中で、新たな人材育成を目指した教育改革（「生きる力」がキーワードでした）の一環で組み込まれたものです。事業仕分けで2010年度から抽出方式となりましたが、今年度から全国の小5と中2全員が受ける形に戻されました。現在、世界規模で活動する多国籍企業のため、世界中どこへ行っても働ける従業員だけを正社員とし

て雇い、それができない従業員は低賃金で不安定な労働条件で雇う「限定正社員」制度や、残業代ゼロ、長時間タダ働きを合法化する「雇用制度改革」など「国際競争力強化」を図る多国籍企業のための「改革」が進められています。資本の要請する低賃金・使い捨て労働者を正当化する安倍内閣の進める規制緩和です。このような体力のある使い捨て労働者が人材として必要とされているのです。（使い捨て労働者は何回も使い回しできないと困ります。）その中で進められる学校現場の体力向上施策です。「体力低下」と言えば国民合意で体力向上政策を進められます。

学校現場ではあまり知られていませんが、成人にも行われています。本来はすべての労働者からのサンプリングを可能にしようとしており、20～64歳対象のもの、65～79歳対象のものがあります。成人のサンプリングはなかなか進んでいませんが子どもたちのデータは学校を通せば容易に収集でき、蓄積に成功しているのです。このデータは資本にとって貴重なデータです。

（部会代表）